

令和7年度森林づくり県民税活用事業 事業別予算執行及び取組進捗状況（3月末時点）

事業区分		事業名	事業概要	予算額 (千円)	執行額 (千円)	執行率	目標及び実績			備考	担当 部局
							基本方針の目標 (単位)	<R7年度>			
								目標	実績		
<b>I 森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり</b>				<b>386,635</b>	<b>327,810</b>	<b>85%</b>					
再造林の加速化	①-1	【人工造林・初期保育の嵩上げ】 主伐・再造林等の加速化を図るため、人工造林・下刈り等の初期保育を支援	230,760	197,115	85%	再造林面積 (ha)	580	358	62%		林務部
	①-2	【再造林省力化モデル推進事業】 再造林の省力化を図るために必要な架線の設置・撤去や自走式下刈り機のリース料等を支援	12,000	9,733	81%						
	①-3	【再造林推進シカ捕獲サポート】 再造林後の森林の確実な更新を図るための罾の見回りや機器の保守作業等を支援	2,100	316	15%						
	小計			244,860	207,164						
防災・減災のための里山整備	②	未整備の里山のうち、防災・減災のための優先的に整備が必要な里山の間伐等の森林整備を支援	141,775	120,646	85%	間伐面積 (ha)	527	351	67%		
<b>II 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり</b>				<b>162,686</b>	<b>116,742</b>	<b>72%</b>					
開かれた里山整備事業	③-1	より多くの県民が里山の森林に親しむことができるよう「開かれた里山」の整備を推進	32,874	26,340	80%	県民が広く親しめる里山整備利用地域の箇所数 (箇所)	10	9	90%		林務部
	③-2	地域住民等による里山の森林管理体制を確立するため、整備・利用計画の樹立や資機材導入等の活動基盤整備を支援	23,472	23,468	100%						
	小計			56,346	49,808						
木造・木質化支援事業	④-1	【広く県民が利用する施設等の木造・木質化】 民間施設等の木造・木質化等の支援、県有施設の木造・木質化等の推進	59,900	21,808	36%	木造・木質化等の箇所数 (箇所)	11	16	145%		林務部
	④-2	【木工体験の推進支援】 小中学生等を対象とした木工教室などの木工体験活動を支援	1,500	1,500	100%						
	④-3	【長野県産材CO2固定量認証】 県産材を使用した建築物等のCO2固定量の認証や工務店等に対する認証制度の広報活動を推進	600	198	33%						
	小計			62,000	23,506						
やまほいくのフィールド整備や 学校林の整備等	⑤	【信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業】 自然保育に係るフィールド等の整備を行う認定園に対し整備費用を補助	6,000	5,724	95%	フィールド整備の箇所数 (園)	8	8	100%		県民文化部
	⑥	【学びと育ちの森づくり推進事業】 ※地域の里山や学校林を利活用して行う森林環境教育を支援	6,500	6,105	94%	学校林整備等の箇所数 (箇所)	6	4	67%		林務部
	小計			12,500	11,829	95%					
まちなかの緑・街路樹の整備	⑦	【まちなかの緑地整備事業】 信州まちなかグリーンインフラ推進計画に基づく街中の緑地整備を支援	4,000	3,820	96%	緑地整備の箇所数 (箇所)	5	5	100%		建設部
	⑧	【まちなかの緑地保全事業】 街中の緑地保全の実施 <県> (11,000千円) 【まちなかの緑地保全補助事業】 街中の緑地保全の支援 <市町村> (2,690千円)	17,840	17,778	100%	緑地の保全延長 (km)	6.4	7.5	117%		
	⑨	【観光地の景観整備(県単道路橋梁維持修繕費)】 景観形成のための街路樹の整備・植樹	10,000	10,000	100%	整備延長 (km)	4.0	4.0	100%		
	小計			31,840	31,598	99%					

事業区分		事業名	事業概要	予算額 (千円)	執行額 (千円)	執行率	目標及び実績			備考	担当 部局
事業名	事業概要						基本方針の目標 (単位)	<R7年度>			
								目標	実績		
<b>III 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業体への支援</b>				<b>52,522</b>	<b>38,739</b>	<b>74%</b>					
森林サービス産業総合対策事業	⑩-1	【森林サービス産業活動支援事業】 健康・教育・観光等の多様な分野で森林空間を活用する取組を支援	24,129	21,642	90%	森林サービス産業に取り組む 地域プロジェクト数 (プロジェクト)	10	10	100%		林務部
	⑩-2	【森林サービス産業人材育成支援事業】 森林セラピー基地等のガイド等の人材育成及び資質向上のための講座の開催等	5,335	5,228	98%						
	小計			29,464	26,870						
地球温暖化防止吸収源対策推進事業 (長野県森林CO2吸収評価認証制度)	⑩-3	森林の里親企業等から申請された間伐等実施地の森林CO2吸収量の評価 審査及び認証	290	77	27%						
信州ネイチャーセンター構築事業	⑪	自然観察インストラクターや自然公園施設を活用した取組をしている 者を対象とした講習会や研修会の開催	2,000	1,999	100%	エコツーリズム ガイドの育成人数 (人)	5	6	120%		環境部
多様な林業の担い手確保育成事業	⑫	林業を支える裾野の担い手となる就業者の確保のために必要な経費を 支援	20,768	9,793	47%	多様な林業に関わる新 規就業者数 (人)	40	集計中	-	9月頃に集計予定	林務部
<b>IV 市町村と連携した森林等に関する課題の解決</b>				<b>208,780</b>	<b>212,394</b>	<b>102%</b>					
市町村森林整備支援事業	⑬	【ライフライン等の保全対策】 ライフライン等保全のための支障木等の伐採	40,000	50,297	126%	整備箇所数 (箇所)	20	45	225%		林務部
	⑭	【観光地の景観整備】 観光地の魅力向上に向けた森林整備	24,300	20,683	85%	観光地の 景観整備箇所数 (箇所)	20	25	125%		
	⑮	【緩衝帯の整備】 野生鳥獣による被害防止のための森林整備	28,000	32,361	116%	緩衝帯の 整備箇所数 (箇所)	35	40	114%		
	⑯	【森林の病虫害被害対策】 病虫害被害による枯損木の有効活用	74,000	66,573	90%	枯損木利活用材積 (m <sup>3</sup> )	2,000	2,200	110%	本事業の実績は、松くい虫被害の状況に左右される ものであり、令和7年度は、未被害市町村での処理 量が少なかった。	
	⑰	【森林の病虫害被害対策】 森林外や未被害市町村での被害木処理等				被害木処理材積 (m <sup>3</sup> )	1,080	298	59%		
	小計			166,300	169,914	102%					
河畔林整備事業	⑱	市町村が管理する準用河川区域及びその周辺の河畔林のうち、市町村 が行う防災効果の高い箇所での除間伐を支援	42,480	42,480	100%	整備箇所数 (箇所)	17	18	106%		建設部
<b>V 普及啓発、評価検証</b>				<b>7,128</b>	<b>6,023</b>	<b>85%</b>					
みんなで支える森林づくり推進事業	⑲	県民の理解を深めるための広報・普及啓発活動等	7,128	6,023	85%			-			林務部
<b>合計(a)</b>				<b>817,751</b>	<b>701,708</b>	<b>86%</b>					

※千円未満の四捨五入により合計が一致しない場合がある

1

# 再造林の加速化

補 市町村

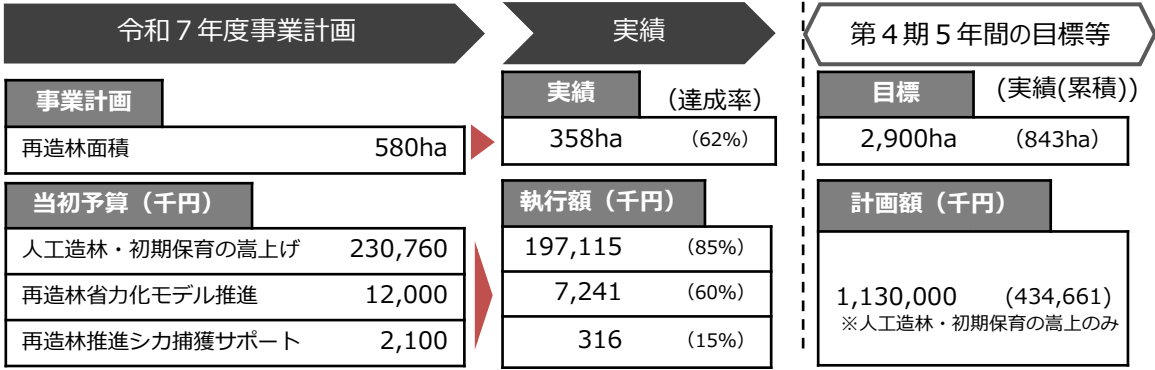
## 1 事業の概要

林務部 森林づくり推進課

2050ゼロカーボンの実現に向けて、本県では民有林人工林の8割が50年生を超えており、CO2吸収機能を十分発揮するためには、若い森林への更新が必要である。このため、人工造林や下刈り等の初期保育に対する補助率を高め、森林所有者の負担を軽減するとともに、人工造林や初期保育の省力化、植栽木の野生鳥獣被害対策等の支援を行うことで再造林の加速化を図り、持続的な林業を推進する。

現状	・森林資源は着実に充実してきている一方で、林業が本来持っている「植えて、育てて、伐って、使って、また植える」といったリサイクルが必ずしも循環しているとはいえない状況にある。
課題	・主伐とその後の再造林を進め、人工林の若返りを図ることが喫緊の課題である。 ・森林の高齢化が進み、CO2吸収能力も長期的に減少することが懸念される。

## 2 令和7年度事業の実施状況



### ■再造林



▲植栽 (上田市)



▲植栽 (大町市)

### ■初期保育：下刈り (小海町)



整備前



整備後

## 3 令和7年度事業の実施結果

- 目標には及ばなかったものの、再造林面積は前年度より120ha増加し、着実に再造林を進めることができた。
- 依然として取組の進捗に地域差があることから、取組が進んでいる地域においては低コスト造林を普及し、再造林が進まない地域については事例集を活用して再造林に対する不安や懸念を減少させるなど、地域課題に合わせた普及指導を行う必要がある。

林務部 森林づくり推進課

## 1 事業の概要

未整備の里山のうち、航空レーザー測量等を活用して絞り込んだ、人家等の保全対象に近く、山地災害の危険性が高い箇所を対象に、防災・減災のために優先的な整備が必要な里山で行う間伐等の森林整備を支援する。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等が増加し土砂災害や流木被害等が発生している。</li> <li>・水が集まる地形、風化しやすい地質など災害の危険性が高い里山において未整備となっている森林がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地で頻発している土砂災害や流木被害等を防止するため、間伐等の里山整備を早急に進めることが喫緊の課題である。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画		実績		第4期5年間の目標等	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
里山の間伐面積	527ha	351ha	(67%)	1,600ha	(688ha)
当初予算(千円)		執行額(千円)		計画額(千円)	
里山の間伐	141,775	120,646	(85%)	550,000	(330,041)

## ■ 保育間伐 (飯田市)

整備前



整備後



## ■ 搬出間伐 (伊那市)

整備前



整備後



## 3 令和7年度事業の実施結果

- 県外在住の森林所有者との協定締結に日数を要し、現場着手が遅れたこと等により、実績は目標面積を下回ったが、人家等に近接する山腹崩壊等の危険性が高い箇所での間伐等の森林整備が実施され、災害に備えた予防的対策が図られた。
- 引き続き、各地域の事業者等への説明やヒアリング等、事業の積極的な活用を促す必要がある。





▲開かれた里山の整備事業（修景林間整備）  
（山田里山の会：駒ヶ根市中沢原地区）



▲開かれた里山の整備事業（修景林間整備）  
（木曽森林組合：木曾町開田高原地区）



▲「開かれた里山」における取組事例（作業後の集合写真）  
（山育結の会：伊那市手良中坪2地区）



▲「開かれた里山」における取組事例（しいたけ駒打ち体験）  
（生坂村高津屋森林公園管理組合：生坂村高津屋森林公園地区）

・地域の里山景観の向上を目的に、19名が参加しサクラ等の広葉樹の植樹体験を実施した。  
・地区内外の住民が協働でサクラ等の保育作業を継続的に実施するとともに、眺望も楽しめる遊歩道を整備し、新や原木きのご栽培等による地域資源を活用することで里山への来訪者の増加につなげる。

・地域の特用林産物（きのこ、山菜）等の里山資源の利活用を目的として、しいたけ駒打ち体験及びワラビ収穫体験を開催し、地域内外から158組が参加した。  
・これらの取組を通じて、里山資源の魅力や活用方法に対する理解の促進が図られるとともに、地域住民と都市部住民との交流機会の創出につながっている。



▲「開かれた里山」の全国への発信  
（R8.2 架線集材全国サミットでのブース展示）



▲「開かれた里山」事例集及び掲載先  
（長野県ホームページ）



### 3 令和7年度事業の実施結果

#### 【開かれた里山の整備事業】

- 第3期まで「県民協働による里山整備」により実施した下刈り箇所継続的な実施、開かれた里山内の景観の向上、安全性の確保のため修景林間整備を実施した。

#### 【開かれた里山の整備・利用推進事業】

- 9つの里山整備利用地域の「開かれた里山の整備・利用計画」を承認するとともに、「開かれた里山」の整備や利用に向けた取組を支援した。
- 県内の「開かれた里山」について、全国規模のイベントやホームページ等を通じて積極的に情報発信を行い、認知度の向上と来訪者の増加に努めた。

林務部 県産材利用推進室

## 1 事業の概要

県産材利用に対する県民の意識醸成を図るため、県民が多く訪れる施設の木造・木質化、子どもが行う木工体験の取組を支援し、「あたりまえ」に県産材が利用される環境づくりを進める。

現状	・地域の森林の持続的管理には、地域で利用する木材を地域で生産する地産地消の取組が重要であるが、県民が県産材に普段から接し、その良さを感じる機会が必ずしも身近にあるとはいえない。
課題	・県民が木材と触れ合う機会・場を創出し、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出を図ることが喫緊の課題である。

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画

実績

第4期5年間の目標等

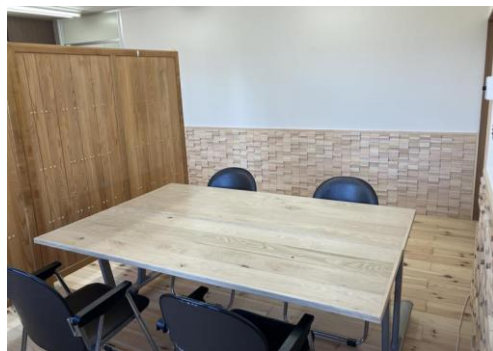
事業計画	実績	(達成率)	目標	(実績(累積))	
広く県民が利用する施設等の木造・木質化	11施設	16施設	(145%)	55施設	(35施設)
当初予算(千円)	執行額(千円)	計画額(千円)			
広く県民が利用する施設の木造・木質化	21,808	(36%)	192,750	(56,151)	
木工体験の推進支援	1,500	(100%)	5,250	(3,600)	
長野県産材CO2固定量認証制度の普及啓発	198	(33%)	2,000	(718)	

※ うち1施設 6,809千円をR8年度へ繰越

## [木造・木質化]



▲地域交流施設 (内観) (安曇野市)



▲事務所 (内観) (長野市)



▲事務所 (内観) (小海町)



▲北信合同庁舎 受付 (中野市)



▲ふるさと回帰支援センター 長野県ブース（東京都）

[木工体験]



▲木工工作コンクール



▲信州なかの環境フェア（椅子づくりの体験）



▲信州 山の日イベント（椅子づくりの体験）



▲ながの森林・林業フェア（椅子づくりの体験）

[長野県産材CO2固定量認証]



▲JR小海線 岩村田駅 CO2固定量9.9t

3 令和7年度事業の実施結果

**[広く県民が利用する施設等の木造・木質化]**

○ 広く県民が利用する施設16箇所に木造・木質化等の支援・推進を行い、県民が身近に県産材に接することができる場を創出した。

**[木工体験の推進支援]**

○ 小中学生等を対象とする木工教室や、木工工作に関するコンクール開催への支援を行い、3,903人の参加者を集めた。

**[長野県産材CO2固定量認証制度]**

○ 県産材を使用した建築物等のCO2固定量を11件認証（100.4t）した。認証証書を発行し「県産材 利用の環境貢献度」を周知することで、県産材利用や森林づくり県民税の普及啓発を行った。

# 5 信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業

補 市町村

## 1 事業の概要

こども・若者局 こども・家庭課

信州の自然や地域資源を活用した屋外を中心とする様々な体験活動を通じて、子どもの感覚が豊かに刺激され、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性等を育むことができる環境を整備して、信州やまほいく認定園における保育の質の向上を図る。

現状	・県独自の制度である「信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度」の認定園において、安心・安全に子供たちが活動するためのフィールド等環境整備を求める声が事業者・保護者ともに多く寄せられている。
課題	・認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境を充実させることが必要。

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画		実績		第4期5年間の目標等	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
フィールド整備箇所数	8箇所	8箇所	(100%)	40箇所	(23箇所)
当初予算(千円)		執行額(千円)		計画額(千円)	
やまほいく認定園のフィールド整備	6,000	5,724	(95%)	30,000	(17,196)



▲整備前 転落防止柵整備(喬木村)



▲整備後 転落防止柵整備(喬木村)



▲整備前 道路整備(松川町)



▲整備後 道路整備(松川町)

## 3 令和7年度事業の実施結果

### 【やまほいく認定園のフィールド整備】

- 倒木の恐れのある危険木や枯れて落下の恐れのある枝の除去、危険木の伐倒等によりフィールドを整備することで、子どもたちが安全に自然体験活動を行うことができるようになった。

※「信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度」・・・信州の豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた保育・幼児教育の普及を図るため、平成27年4月1日に制定。令和7年10月1日現在316園が認定されている。

林務部 信州の木活用課

## 1 事業の概要

森林に囲まれた環境で育つ長野県の子どもたちが、森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりの土台となる豊かな原体験や知識を得られるよう、学校林や地域の里山等の身近な森林の活用を推進する。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校林等の教育に身近な森林の手入れが十分行き届いていない等により、子どもたちの森林体験学習のフィールドが十分に確保されていない。</li> <li>森林体験学習等を安全かつ効果的に実施するための体制やノウハウも十分ではない。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが安全に学習できる森林のフィールド確保が必要。</li> <li>効果的な体験学習を実施できる体制の構築が必要。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画

実績

第4期5年間の目標等

事業計画	実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
学校林整備等の実施箇所数	6箇所	4箇所	35箇所	(28箇所)
当初予算(千円)	執行額(千円)		計画額(千円)	
学校林の整備・利活用	6,105	(94%)	30,000	(19,429)
学校林の整備・利活用(県)				
4,380				
2,120				



▲キハダの植樹活動(木祖村)



▲里山を活用した森林環境教育(伊那市)



▲間伐材を活用したコースター作り(松本市)



▲ツリーテラス製作作業(長野市)

## 3 令和7年度事業の実施結果

- 子どもたちの森林・林業への理解と関心の向上、健全な心身の育成、将来の林業の担い手確保等を目的に、森林環境教育フィールドの整備や森林環境教育活動への支援を行った。その結果、学校教育における森林活用のニーズに応える取組が進み、第4期5年間の目標達成に向け、着実な成果を上げている。

## 1 事業の概要

建設部 都市・まちづくり課

都市において、緑地を保全するとともに緑化を推進することにより、良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与するため、市町村及び民間団体等が行う森林を身近に感じられる市街地の緑地の整備を支援する。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地においても景観や環境への配慮の観点から木々に親しめる緑化整備を集中的に推進することが求められている。</li> <li>ヒートアイランド現象や大気浄化などが問題になっており、市街地の緑化による生活環境の保全も求められている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地などの土地を活用した、地域住民等が利用する身近な緑地の整備が必要。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画		実績		第4期5年間の目標等	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
緑地整備箇所数	5箇所	5箇所	(100%)	10箇所	(8箇所)
当初予算(千円)		執行額(千円)		計画額(千円)	
まちなかの緑地の整備	4,000	3,820	(96%)	30,000	(8,820)

## ■ 緑地整備 (長野市 市道長野北236・237号線)

整備前



整備後



## ■ 緑地整備 (松本市 松本駅お城口広場)

整備前



整備後



## 3 令和7年度事業の実施結果

- 市道の植樹帯における老朽化した樹木の植替えや、駅前の緑陰創出のための新たな植樹を実施し、周辺の都市施設との調和に配慮した緑地整備を行うことで、良好な都市環境の形成に寄与した。

## 1 事業の概要

建設部 都市・まちづくり課

都市において緑地を保全することにより、良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与するため、県及び市町村が行う森林を身近に感じられる市街地の緑地の整備を実施・支援する。

現状	・都市化の進展により、県内の用途地域内の緑被率が1997年から2016年前の20年間で16.8%減少している。
課題	・まちなかにおける都市機能の充実、コンパクトシティを推進するためにも欠かせないが、緑地の減少や維持管理費等の課題から緑地の機能が有効に活用されていない。

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画		実績		第4期5年間の目標等	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
緑地の保全延長	6.4km	7.5km	(117%)	32km	(18.2km)
当初予算(千円)		執行額(千円)		計画額(千円)	
まちなかの緑地の保全	17,840	17,778	(99%)	60,000	(41,480)

## ■ 街路樹の剪定による緑地保全 (長野市 市道長野大通り線)



## ■ 街路樹の剪定による緑地保全 (松本市 市道1059号線)



## 3 令和7年度事業の実施結果

- グリーンインフラの取組を推進するためのエリアビジョンに位置付けられた路線において、街路樹の剪定を実施した。これにより、通風・採光を改善し、樹勢を強くするとともに、樹形を整え、樹種本来の美しさを発揮させ、良好な都市環境の形成に寄与した。

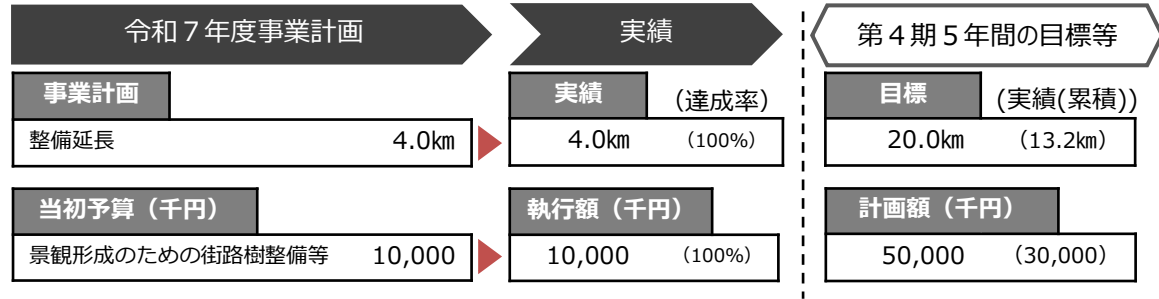
## 1 事業の概要

建設部 道路管理課

山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備する。

現状	・本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな自然を活かした観光地の魅力向上が不可欠。
課題	・観光地の魅力向上に向けた主要道路沿線の景観整備が必要。

## 2 令和7年度事業の実施状況



## ■ 観光地の景観整備 (岡谷市 (主)岡谷茅野線)



## ■ 観光地の景観整備 (松本市 (一)浅間河添線)



## 3 令和7年度事業の実施結果

- 剪定することで通風・採光を改善し、樹勢を強くするとともに、樹形を整え、樹種本来の美しさを発揮させ観光地としての景観を形成した。
- 事業実施中は、道路上に森林づくり県民税を活用していることを示す看板を設置し、通行者への周知と理解の促進に取り組んだ。

## 1 事業の概要

林務部 信州の木活用課

森林を活用した交流人口の増加や地域の活性化を図るため、地域や企業等による森林整備の支援及び森林セラピーや森ヨガ等の講師を担う癒しガイド、地域活性化のコーディネーターの育成等により、里山における森林資源の多面的な利用を促進する。

現状	・近年、森林空間を健康・教育・観光分野において活用する「森林サービス産業」は、山村地域の活性化策として期待されている。
課題	・本県の豊かな森林を維持していくためには地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。 ・森林所有者の関心の低下等により、森林と関わりが希薄になっている。 ・本県の魅力である里山の有効活用のため、地域の里山への関心向上を図る必要がある。

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)

令和7年度事業計画		実績		第4期5年間の目標等	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
森林サービス産業に取り組む地域プロジェクトの数	10 P J	10 P J	(100%)	50 P J	(30 P J)
当初予算 (千円)		執行額 (千円)		計画額 (千円)	
森林空間整備・施設整備	14,900	14,561	(98%)	115,500	(54,893)
創業支援・地域活動支援	8,087	6,663	(82%)		
森林の里親契約マッチング支援	1,142	418	(37%)		
森林サービス産業人材育成支援	5,335	5,228	(98%)		
C o 2吸収量認証	290	77	(27%)	34,500	(16,503)
				2,285	(205)

## 創業セミナー・交流会



▲ 森林サービス産業の創業のノウハウや先進事例を学ぶ創業セミナー



▲ 地域おこし協力隊や市町村職員が森林の利活用の手法について学ぶ研修交流会

## 森林空間整備・施設整備



▲ 森林セラピーロード (南箕輪村) 東屋の改修



▲ 森林セラピーロード (阿智村) 遊歩道の改修

## 森林の里親制度・CO2吸収認証



※県有林J-クレジット創出プロジェクト協力団体認証書贈呈式と併催

▲森林CO2吸収量認証式

森林の里親契約 (R7:4件)

受入者	支援者
佐久市春日財産区	ソニーフィナンシャルグループ(株)
上小森林認証協議会	(株) 第三木材
信濃町	流山市
(一財) C.W.ニコル・アファンの森財団	(株) オカムラ

CO2吸収認証

申請件数(件)	申請面積(ha)	主な作業種	CO2吸収量(t-CO2/年)
20	612	植栽・除伐・間伐	3,375

## 森林サービス産業人材育成事業



▲森林の癒しガイド育成講座(信濃町)



▲ホンシメジ林地栽培技術研修会(塩尻市)



▲里山資源活用講座  
ログハウス製作(青木村)

## <信州森林サービス産業推進ネットワーク>

### ■ネットワークの支援策



加入 ↑↓ 情報提供

- <会員> 事業者、利用者(個人)、市町村等
- <要件> 森林サービス産業に関心のある者
- <会費> 無料

### 事業内容

- ・創業セミナー、事業者交流会
- ・地域おこし協力隊スキルアップ講座
- ・森林の癒しガイド人材、森林利活用コーディネーター育成講座
- ・HP等による情報発信



森林の利活用に関心のある者同士の交流の促進、人材育成、伴走支援等により、地域の主体的な取組を後押し

## 3 令和7年度事業の実施結果

- 森林サービス産業に関心のある事業者等のスキルアップ、情報発信、関係者同士の交流を促す「信州森林サービス産業推進ネットワーク」を通じて、地域の主体的な活動を支援した。
- 森林セラピー基地等への環境整備の支援(11箇所)、森林の利活用に関する人材育成研修等により、意欲的に森林サービス産業に取り組もうとする地域(10地域)を掘り起こした。
- 森林の里親促進事業を通じて、地域の森林と企業のマッチングを進めるとともに、参画する企業の間伐等の取組によるCO2吸収量を評価・認証(計20件)し、CSR活動を見える化した。

## 1 事業の概要

環境部 自然保護課

森林をはじめとした自然環境を持続的に活用し、中長期的に質の高いサービスを提供できるエコツーリズムガイドを育成し、自然体験の機会の充実を図る。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくために、地域による自律的・持続的な森林の活用が必要。</li> <li>・森林資源を有効に活用し、観光や環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出するとともに、環境保全の意識向上につなげることができる人材を育成することが必要。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源・空間の保護と利用の両立を目指す「エコツーリズム」の普及と定着に取り組むガイド人材の育成。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業計画		実績		(参考)	
事業計画		実績	(達成率)	第4期5年間の目標等	
エコツーリズムガイドの育成人数	5人	6人	(120%)	目標	(実績(累積))
				25人	(20人)
当初予算(千円)		執行額(千円)		計画額(千円)	
自然観察インストラクター等に向けた講習・研修会の開催等	2,000	1,999	(100%)	10,000	(5,898)



▲ガイド技術の専門知識・経験を有する講師による講義の様子(長野県美ヶ原自然保護センター)



▲現役ガイドによる体験ツアー



▲企画立案をもとにフィールドでガイド実践(王ヶ鼻周辺)



▲他のグループの模擬ツアーに参加し、解説の方法等を学び合う様子(王ヶ鼻周辺)

## 3 令和7年度事業の実施結果

○長野県内をフィールドにガイド活動に取り組む意欲のある18歳以上の者を対象に、エコツーリズムに関する知識の習得及びガイド実践技術の向上を目的とした研修会を、長野県美ヶ原自然保護センター及びその周辺において3日間開催した。

○参加者30名。このうち中長期的なガイド活動が期待される世代の参加者は6名であった。講習会後のアンケート調査では、共通の目的意識を持つ参加者同士が多様な世代間との交流・情報交換を行ったことにより、「ガイドとして今後の活動への動機付けになった」といった意見があった。

## 1 事業の概要

職業としての林業への関心を高め、林業の就業希望者の裾野を広げるため、広報活動、学校教育等の機会を通じ、森林・林業の多面的な役割、林業就業者の重要性、林業の魅力について、若者を含む県民の関心及び理解を促進する。加えて、地域の需要に柔軟に対応できる小規模事業体に対して、新規就業の促進や就業環境改善等の支援を行うことで、安全で働きやすい職場環境の整備を促進する。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の林業を専攻分野に持つ高校では、募集定員に達せず再増収を実施することも多く、将来の就林人口の確保と定着率のアップにつなげるためには、将来の職業を意識し始める中学生に対して職業としての林業を浸透させていくことが必要である。</li> <li>多様化する森林へのニーズに対応し、山村地域の交流人口の増加を図るとともに、将来の林業就業者となり得る理解者の裾野の拡大に向けた支援策が必要である。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育面からみると、小学校学習指導要領では「森林」を環境面で捉え取り上げている一方で、中学校では森林や林業を学ぶカリキュラムがない。</li> <li>小規模で地域の需要に柔軟に対応できる個人事業者等は、林業への新規参入が比較的容易で、他産業との兼業などにより、地域の林業を支える重要な担い手となり得るが、支援策が手薄となっている。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業計画

実績

(参考)

第4期5年間の目標等

事業計画	実績 (達成率)	目標 (実績(累積))
多様な林業に関わる新規就業者数 40人	調査中 (—) ※9月頃実績確定見込	200人 (60)
当初予算 (千円)	執行額 (千円)	計画額 (千円)
林業の認知度向上対策 6,701	5,610 (84%)	100,000 (26,680)
新規就業者の確保促進 7,617	1,611 (21%)	
安全福利厚生対策 2,818	697 (25%)	
外国人材就林検討 332	115 (35%)	
一人多役による林業連携 3,300	1,760 (53%)	



▲県民ホールにおける林業PR (長野県庁)



▲中学生の林業職業体験 (根羽村)



▲イベントにおける林業機械展示（長野市）



▲中学生による林業機械シミュレーター体験（伊那市）



▲上伊那農業高校における林業学習（伊那市）



▲農業と連携した外国人材確保の取組（佐久市）

### 3 令和7年度事業の実施結果

#### 【認知度向上対策】

- 長野県の林業情報を発信するポータルサイト（ながの森ジョブ.BASE）を改修し、より統一的な情報の発信に努めた。また、長野市表参道秋まつり等のイベントを通じて、子ども・中学生を含む若者をはじめ、広く県民に林業のPRを行うことによって、林業の認知度向上に努めた。

#### 【新規就業者の確保促進 及び 安全福利厚生対策】

- 新規就業にあたり必要となる、資機材や装備品等の準備費用、安全装備等の導入及び蜂アレルギー検査受診や振動病特殊健診受診等、就業環境の改善を図る林業事業体を支援することで、新規就業の確保促進をはじめ、安心して働ける職場環境に向けた改善及び整備を促進した。

#### 【外国人材就林検討 及び 一人多役による林業連携】

- 主伐後の再生林における人材不足解消に向け、地域の他産業（農業）と連携した兼業・副業等による植栽作業を担う人材の確保をはじめ、外国人材の就林に向けたモデル的な取り組みが見られた。

## 1 事業の概要

林務部 森林政策課

ライフライン沿いの森林整備や鳥獣被害を防止するための緩衝帯整備など、各地域の住民生活に直結する個別の課題を迅速に解決するため、市町村が実施する課題解決のための森林整備の取組を支援する。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒木によるライフラインへの被害による停電や交通への影響の他、野生鳥獣による人身事故等が発生しており、県民生活に影響を与えている。</li> <li>・手入れの遅れや森林病虫害被害等による観光地の魅力低下や、病虫害による枯損木が処理できず放置されている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフライン等を保全するための予防的な森林の整備・対策や野生動物が出没しない森林環境の整備が必要。</li> <li>・観光地の魅力向上に向けた森林整備の推進や国庫補助対象外の森林病虫害被害・枯損木への対策が必要。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業計画		実績		(参考)	
事業計画		実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
①ライフライン等の保全対策	20箇所	45箇所	(225%)	190箇所	(153箇所)
②観光地の景観整備	20箇所	25箇所	(125%)	100箇所	(73箇所)
③緩衝帯の整備	35箇所	40箇所	(114%)	150箇所	(97箇所)
④病虫害枯損木の利活用材積	2,800m <sup>3</sup>	2,200m <sup>3</sup>	(79%)	10,000m <sup>3</sup>	(5,155m <sup>3</sup> )
⑤病虫害被害木処理材積	800m <sup>3</sup>	298m <sup>3</sup>	(37%)	5,400m <sup>3</sup>	(1,239m <sup>3</sup> )
当初予算 (千円)		執行額 (千円)		計画額 (千円)	
①ライフライン等の保全対策	40,000	50,297	(126%)	480,000	(182,705)
②観光地の景観整備	24,300	20,683	(85%)		(161,236)
③緩衝帯の整備	28,000	32,361	(116%)	300,000	(147,014)
④病虫害枯損木利活用材積	74,000	66,573	(90%)		
⑤病虫害被害木処理材積					

## ■ ライフライン等の保全対策 (長和町 学者村)



## ■ 観光地の景観整備 (飯田市 下栗)



## ■ 緩衝帯の整備 (白馬村 北城八方地区)



## ■ 森林の病害虫被害対策<枯損木の利活用> (松本市 岡田伊深)



## ■ 森林の病害虫被害対策<森林外の被害木処理> (大町市 運動公園)



### 3 令和7年度事業の実施結果

#### 【ライフライン等の保全対策】

- 目標を上回る箇所ですら主要道路や電柱・配電線などに近接し、倒木により通行支障や停電を発生させる危険性の高い危険木の伐採が実施され、災害に備えた予防的対策が図られた。

#### 【観光地の景観整備】

- 観光地における眺望確保のための森林整備や、高速道路沿線の景観（枯損木）対策が行われ、魅力向上が図られた。

#### 【緩衝帯の整備】

- ツキノワグマによる人身事故の発生などを踏まえた緊急的な対策等にも事業が活用され、集落や農地に近接する林沿部や通学路沿いにおいて見通しが確保される等、野生動物が出没しやすい環境整備が図られた。

#### 【森林の病害虫被害対策】

- 森林病害虫被害により枯損したアカマツ等について、計画量2,800m<sup>3</sup>に対して実績量は2,200m<sup>3</sup>で、達成率は約79%であった。伐採した枯損木は地域の燃料材等により有効活用された。
- 松くい虫による被害木の巡視等をはじめ、迅速な伐倒・燻蒸等の処理が行われ、被害拡大防止の取組が進められた。

## 1 事業の概要

建設部 河川課

河川区域内(官地)に隣接する河川区域外(民地)の立木〔河畔林〕は、所有者の手入れが不十分で間伐が実施されておらず、細く倒れやすい木が密生している箇所があり、それらが豪雨時に流され、橋梁部で川をせき止めるなど、洪水被害を大きくする恐れがあることから、市町村が行う河畔林の除間伐を支援し、洪水被害の未然防止・軽減を図る。

現状	・河川区域に隣接する河川区域外(民地)の立木地(河畔林)は、所有者の手入れが行き届かず、密生した細く倒れやすい木が豪雨時に流れて、橋梁部で川をせき止めるなど、洪水被害の発生や拡大の要因となる恐れがある。
課題	・洪水被害の発生や被害拡大を防止するため、河川へ倒木・流出する恐れのある流木などの除去が必要。

## 2 令和7年度事業の実施状況

令和7年度事業計画

実績

(参考)

第4期5年間の目標等

事業計画	実績	(達成率)	目標	(実績(累積))
整備箇所数	17箇所	18箇所	85箇所	(55箇所)
当初予算(千円)	42,480	執行額(千円)	200,000	(121,040)
河畔林の除間伐への支援	42,480	42,480		
		(100%)		

## ■河畔林の整備(阿南町)



## ■河畔林の整備(東御市)



## 3 令和7年度事業の実施結果

- 入札差金の活用により、当初の目標よりも多くの箇所で河畔林の整備が実施され、洪水被害のリスク軽減が図られた。
- 被害発生リスクのある箇所は各地に存在することから、引き続き河畔林整備を支援する。

# 15 みんなで支える森林づくり推進事業（普及啓発と評価・検証）県

## 1 事業の概要

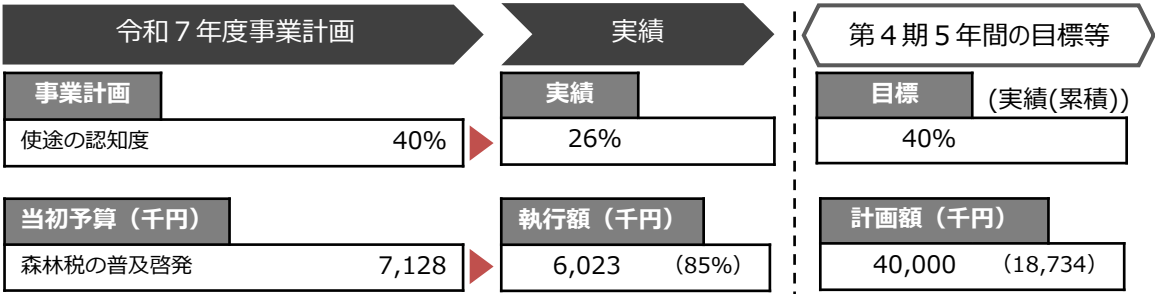
林務部 森林政策課

森林の役割や森林づくりの重要性等について、県民の理解を深め、多様な主体による森林づくりを促進するため、広報・普及啓発活動を実施するとともに、県民会議、地域会議による税活用事業の評価・検証を行う。

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県政アンケートでは、森林税の用途が分からないと回答した方が74%に及び、特に若年層の理解が広がっていない。</li> <li>・県民会議、各圏域での地域会議等による森林税活用事業の評価・検証を実施。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林税に関する県民の理解を一層広げ、特に理解が薄い層への効果的な広報が必要。</li> <li>・チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議・地域会議による森林税活用事業の評価・検証が必要。</li> </ul>

## 2 令和7年度事業の実施状況

(参考)





▲市町村広報誌



▲WEB広告



▲PR横断幕



▲イベントでの広報(上田地域)



▲地域広報誌等への掲載(佐久地域ほか)



▲地域会議・現地調査(北アルプス地域)



▲現場調査(北アルプス地域)

## 3 令和7年度事業の実施結果

- 地域情報誌やイベント開催、看板等の物品制作・設置によるPRなど、様々な媒体・方法で森林税の用途の認知度向上が図られるよう努めた。
- 県政アンケート結果を基に、県民が受動的に情報を受け取ることができるよう、動画プラットフォームやデジタルサイネージへの広告掲載をはじめとするプッシュ型広報を実施した。
- 県民会議及び地域会議を実施し、意見を取り入れながら事業執行を行った。